# 総　合　教　育　会　議　会　議　録

**会議名**　令和４年７月総合教育会議

**開催日**　令和４年７月28日（月）午後１時30分～午後２時30分

**開催場所**　議会棟５階　第２委員会室

**出席者**　広瀬市長、髙須教育長、藤田教育長職務代理者、玉井委員、秋元委員、中川委員、中澤委員

**事務局等出席者**

荒木教育次長兼学校教育部長、宮永学校教育部部長、若林教育監兼総合教育研修センター所長、山口教育監、中村社会教育部長、三宅社会教育部部長、吉田経営企画部次長、赤堀学校教育部次長兼教育政策総務課長、西村企画一課長、坂本教育政策総務課係長、浦戸教育政策総務課係長、坂口（教育政策総務課担当）

**○荒木教育次長兼学校教育部長**

定刻となりましたので、これより寝屋川市総合教育会議を開会いたします。本日、進行役を務めさせていただきます教育委員会事務局教育次長兼学校教育部長の荒木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、教育委員会におきましては、５月の定例会において、寝屋川市教育委員会会議規則の一部改正を行い、教育長及び委員が、オンラインにて会議に出席することが可能となっております。それに準じまして、本日の総合教育会議において、中川委員がオンラインにて出席されますのでよろしくお願いいたします。

それでは、今後の議事進行につきましては、寝屋川市総合教育会議運営要綱第４条の規定に基づき、市長にお願いいたします。

広瀬市長、どうぞよろしくお願いいたします。

**○広瀬市長**

本日は御多用の中、総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。本日は、コミュニティ・スクールについて及び市第四中学校区小中一貫校の校名について、教育委員会と課題を共有し、より一層連携して事業を推進するため、皆様方と協議したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします 。

それでは、次第の２、コミュニティ・スクールについて、事務局から説明いたします。

**○赤堀学校教育部次長兼教育政策総務課長**

それでは、コミュニティ・スクールにつきまして、御説明させていただきます。「コミュニティ・スクールに関する今後の方針」の資料を御覧いただきたいと存じます。

本方針につきましては、４月教育委員会定例会にて、議決いただきまして、現在、条例や規則等の制度設計を進めているところでございます。これまでの経過及び今後の予定につきまして、御報告いたします。

別紙「コミュニティ・スクールの導入に向けたスケジュール」を御覧ください。

まず、４月教育委員会定例会におきまして、本方針を議決いただきました後、議会への説明を終え、５月校長会・教頭会にて方針の説明をいたしました。現在、各中学校区にて、学校運営協議会委員の候補者について、検討を進めているところでございます。

次に、９月市議会定例会におきまして、寝屋川市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正（案）を付議させていただき、委員報酬を定める予定でございます。

次に、10月教育委員会定例会におきまして、学校運営協議会の設置等に関する規則(案)及び寝屋川市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部改正（案）を付議させていただき、学校運営協議会について必要な事項を定め、規則の整備を行なう予定でございます。

次に、11月校長会・教頭会におきまして、規則等の制度説明を行い、12月には学校向けに、学校運営協議会に係る手続等についての説明会を開催する予定でございます。

委員の委嘱及び任命につきましては、３月には学校長からの推薦を受け、令和５年４月の教育委員会定例会に付議させていただく予定でございます。

今後も引き続き、学校等への丁寧な説明を行い、令和５年度からのコミュニティ・スクールの円滑な導入につなげてまいります。

以上、誠に簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

**○広瀬市長**

事務局の説明は終わりました。それでは、私からお話をさせていただきたいと思います。

このコミュニティ・スクールについては、随分前に制度化されております。15年以上前にこういう制度が立ち上がって、学校の様々な特色を出す中で、地域と一緒になって新しい学校の在り方を目指していきたいということで、私も議員のときに質問させていただいたのを覚えています。

今は少し変わっているかもしれませんが、当初に校区の在り方等のいろんな議論が東京で始まりまして、東京の一部の地域で校区のない状態の中で自由に学校を選べるということが話題になっていた時期がありました。

その中で、地域と学校が一緒になって、うちの学校はこういう特色があって、こういう方針で学校を運営しているのだということをしっかり作っていかないと、新入生が集まらないという状況でした。隣の学校に行けますので、そうすると、すごくいい取組をされて、しっかりとした方針を持って学校を運営されている学校には、新入生がたくさん集まってきますが、そこが少し十分ではない学校には、集まっていかない

ということで、すごく注目をされた時期がありました。それ以降、校区の在り方というのは、随分議論されましたが、また元に戻っているところもあります。

今、寝屋川市はその要素を生かして、学校評議員制度を導入してきた経緯があって、これを定着させながら地域の皆さんの意見を聞き、学校の運営に努めておられると思います。

これが、今回新たに学校運営協議会という、当時１回目の波を越えて、次に２回目の波であえて寝屋川市は、ここでチャレンジをしていこうということなので、１回目の頃のいろんな反省点や、いろんな課題なども整理されてきていると思いますので、教育委員会としては、寝屋川教育を実現していくのにポジティブに捉えて、しっかりとリサーチした上で、積極的に活用できるような体制にしていただきたいと思っております。

寝屋川教育を積極的に推進していただいて、ディベート教育によって考える力を育み、結果として学力にもつながりつつあるという大変良い傾向だと思っておりますので、このコミュニティ・スクールの導入を、一つの追い風とできるような制度にしていただきたいと思います。寝屋川教育とは、また別の議論の中で展開されるのではなく、しっかりと組合わさるような仕組みづくりをこれから導入に向けて、準備を進めていただけたらと思います。

私からは、以上です。

それでは、教育委員会を代表して、髙須教育長よりお願いいたします。

**○髙須教育長**

今、市長から学校評議員制度や、学校運営協議会に移行するというお話がありまして、テレビやニュースでも、新入生が集まらないという事情があり学校長がいろんなところを回って新入生を集めているというというような姿も見た覚えがあります。

私どもは、令和５年度からコミュニティ・スクール導入を目指しているわけですが、そのコミュニティ・スクールそのものが形式的な取組で終わってしまうのではなく、先ほど市長も仰いましたが、しっかりと機能させていくことが必要であり、そのために２つの考え方で取組んでいくことが、大事なのではないかと思っております。

１点目は、学校運営協議会で基本方針を承認するという作業の過程の中で、学校、保護者、そして地域が、中学校区が目指すものを共有することによって、関係する全ての者が同じ方向性を持って目標に向かっていき、それぞれの立場から、自分たちにできることをしっかり考えて積極的な取組に進めていくということが、大事なことではないかと思っております。

２つ目は、コミュニティ・スクールによる取組を通じて、学校を中心にして地域がつながっていき、地域と学校の相互の信頼関係が深まることによって、地域そのものが充実して活性化していく、そういうことにつながっていくのではないかと考えております。

先ほども市長が仰っていた、「寝屋川だから学べる寝屋川教育」の推進にしっかり

寄与していくようにしなければならないと思っています。コミュニティ・スクールをしっかりと推進することによって、寝屋川市の全ての学校が新入生を多く集めれば、寝屋川市の人口も当然増えていくわけですから、そういうものを目指していきたいと考えています。

今後もコミュニティ・スクールの導入に向けては、学校や関係機関とも連携しながら着実に進めていきたいと考えております。

以上でございます。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

これが進んで寝屋川市の人口が増えて、隣の小学校、中学校から生徒が来るだけではなく、寝屋川の学校で学びたいという子供たちが増えることを実現していかなければならないと思っていますので、教育長の発言は大変心強く思いました。ありがとうございます。

この件につきましては、教育委員の皆様からは、既に御意見を頂戴しているところですが、改めて御意見等はございますか。

秋元委員、お願いいたします。

**○秋元委員**

このコミュニティ・スクールの導入というのは、とても良いものだと思っています。委員構成について、校長先生や委員になられた先生の負担が大きくならないかというのが少し心配になりました。

どうしても会議をするとなると、普段の事務作業、先生の仕事以外でも会議資料の作成等が増えるということになると思います。

あと、役割として「学校運営等について意見ができる」とあったと思うのですが、コミュニティ・スクールの力が大きくなり過ぎたりすることはないのかとも思いました。

ですが、もう既にコミュニティ・スクールが導入されているところの話だったり記事を見てみると、保護者であったり、地域住民の方に、学校の思いを学校だけじゃなくて、保護者、地域住民の方と共有できたり、更に積極的に学校に関わってくださるようにはなるという話も聞いておりますので、寝屋川のコミュニティ・スクールもそのように全てで活性化していって、最終的には子供の人口が増えることにつながればいいなと思っています。

**○広瀬市長**

ありがとうございました。

藤田教育長職務代理者はいかがでしょうか。

**○藤田教育長職務代理者**

私は令和５年度に小中一貫校が開校することに合わせて、全中学校区でコミュニティ・スクールを導入されることは、小中一貫教育の推進という観点からも大変意義深

いと感じております。

平成17年から寝屋川市で、小中一貫教育が全中学校区でスタートし、今年で18年目を迎えると思います。全教職員で９年間の連続性を見据えた教育活動を行ってきました。それはもう定着していると思います。当初は子どもたちの中学１年生ギャップというよりも、小学校教員と中学校教員間でギャップがあったと思います。

中学校の先生たちが小学校に来て授業をしたり、小学校の先生たちも中学校へ参観に行くことで、徐々に教師のギャップはなくなり、子供たちの中１ギャップもほとんど解消されてきていると思います。学校としたら、十分小中一貫校としての体を成していると思います。

コミュニティ・スクールについてですが、それぞれ小学校も中学校も、いろんな方が関わってくださり、様々な会議が開かれてきました。その時に同じような説明を何度もする必要が今まではありました。今回のコミュニティ・スクールを導入することによって、かなり組織のスリム化ができるのではないかと思います。

地域、保護者の方も、現場の先生方と同じように連続性を持った９年間で子供たちの育ちを見ていただけるので、私はすごく良いことだと感じております。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

玉井委員はいかがでしょうか。

**○玉井委員**

今回、寝屋川市もコミュニティ・スクールを導入されるということでいろんな資料を拝見していますと、導入段階での課題がいろいろあるのだということを挙げられていました。今回導入されることになって、１つ課題をクリアして進んでいかれているのかなと感じました。

一方、新しい取組を行う場合は、課題やハードルが必ずあると思いますが、導入後の運営上の段階での課題がまた生まれてくるのではないかと推測しております。

コミュニティ・スクールに関する資料の中で、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進め、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現」という文言がありました。

いろんな方がコミュニティ・スクールに関われることが大切で、それが生かされる組織だと思うのですが、学校を核としたというところに関して、やはり現場の先生方のお考えというのが非常に大事なのではないかと思いました。そこで質問なのですが、学校の先生方の御意見にはどのようなものがあるのかお聞きしたいです。

**○広瀬市長**

教育委員会事務局、いかがですか。学校の先生の意見を集約したり、聞いていくような体制、また学校の先生方はコミュニティ・スクールに対して、どういう捉え方をしているだろうと推測をしていますか。

はい、荒木教育次長。

**○荒木教育次長兼学校教育部長**

まず、今回方針を決めていただきまして、寝屋川の校長会を含めて、今御説明をさせていただいているところでございます。既に学校評議員として、各校でそれぞれ取組をしていったものを、今回は中学校区として、学校運営協議会という形にしていきます。小中一貫校への移行も見据えて、校区として連携をしていくということについては、共有をしていただいていると感じております。

ただ、実際にはこれから具体的にどのように進めていくのかについては、秋以降にまた校長先生方や教頭先生方と、ひざを突き合わせながら御説明や、学校現場の状況や御意見もお聞かせいただきながら進めていきたいと考えております。

以上でございます。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

中澤委員は、いかがですか。

**○中澤委員**

初めてこの話を聞いたときは、本当にすばらしい取組だと思いました。全市的にも、コミュニティ・スクールを導入するということで、子供たちの豊かな成長に向けて、学校、家庭、地域が今まで以上により一層連携を取っていかないといけないのではないかというところで、協働体制の構築にもつながると感じております。

私自身も、小・中学校とＰＴＡ会長をさせていただき、地域教育協議会の副会長なども勤めさせていただいている中で、今まで積極的に地域活動に参加してきました。そこで、子供たちがよりよく安全に育っていくためには、やはり学校と地域と家庭が手と手を取り合って、子供たちを成長させていくということが特に大事なのではないかと思っておりましたので、この取組には、本当に期待しております。

今後、学校運営協議会が設置されるということで、今までの学校評議員というスタイルとはまた少し変わっていって、今まで以上に地域と保護者が学校と話をして連携を取り、子供たちを安全に育てていくという流れが、このコミュニティ・スクールを導入することによって、スムーズにいくのではないかと思います。

１点気になったのが、コロナ禍でいろいろな地域の活動が２年間止まっており、引継ぎがあまりスムーズにいってないという印象があります。このコミュニティ・スクールに関しましても、例えば、校長先生が変わられたときに、それまで構築されていた地域のコミュニティ・スクールの運営体制が、変わらずにうまく引き継がれていくのかどうかということが、少し懸念されると思います。

**○広瀬市長**

教育委員会事務局、いかがでしょうか。確かにメンバーが入れ替わっていきます。特に、危惧されるのは、例えば学校の先生方や保護者の方は、年度によって入れ替わりますが、地域の方々は、長く地域活動に携わっている方がおられます。学校の先生

方の転勤など、メンバーが入れ替わるスピード、サイクルがやや違うようなところがあるかと思いますが、これは運営上どういうところを注意していこうと思っていますか。

はい、荒木教育次長。

**○荒木教育次長兼学校教育部長**

まずメンバーですが、任期は１年となっており、再任は可能で連続して５年以内となっておりまして、毎年メンバーは新しくしていくという形になっております。ただ、今御指摘いただきましたように、やはり５年間続けて再任となったり、一度退任となっても、また委員となっていただく可能性もあります。ですので、メンバーの入れ替えや、どのように各年度のメンバーを作っていくかということは、毎年度の課題になると思います。

現時点におきましても、学校評議員につきましては、そういった引継ぎ作業をしていただいているところなのですが、協議会になりますので、運営方針であるとか、より引継ぎに対してスムーズに進めていけるような視点が必要だろうと思いますので、今いただいた視点も含めまして、秋以降の準備に生かしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

それでは中川委員にも、何か御意見いただければと思います。

**○中川委員**

やはり、世界の変化がすごく早いですので、学校だけじゃなくてコミュニティの視点、知見というものが入るのは、とても良いことだと思います。その中で学校において、何をどのように教育すべきかというような点でも多様な価値観が、まさに出てくることになると思いますので、そういう触れる機会というところが、とても良いと感じております。

１点質問ですが、学校運営協議会で協議された内容、これはどのように保護者や地域などに、情報を提供していくのかというところを教えていただければと思います。

**○広瀬市長**

はい、赤堀次長。

**○赤堀学校教育部次長兼教育政策総務課長**

学校運営協議会で協議した内容については、学校からの周知が中心になると考えております。

一般的には、学校だよりやホームページに情報の掲載をさせていただくことになると思います。また、各種団体の会議の場においても情報共有をしていただいて、保護者、地域のより一層の理解、教育への支援を進めていただきたいと考えております。

以上でございます。

**○広瀬市長**

はい、中川委員。

**○中川委員**

学校の情報が保護者の皆さんにも入っていくと、例えばディベート教育のような特色のあるものも、市民全体が理解して、より活気づくのではないかと思います。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

今、いただいた御意見に対して、私も意見を述べさせていただきます。まず、中川委員が御指摘のように、例えば、学校であったり地域であったりというところに対して、学校が今取り組んでいる内容や教育の内容が十分に伝わっているということは、このコミュニティ・スクールをうまく運用していくためには、大変重要なことだと思います。

これは私が感じていることですが、例えば、寝屋川教育は皆さんに御努力いただいて成果もあげて、大変順調に進んでいると感じております。この寝屋川教育の内容を、市民の皆さんや保護者の皆さんが理解していただけるように、もう少し周知方法を検討する必要があるのではないかということは、私だけではなく、恐らく教育長はじめ、皆さんも思ってらっしゃるのではないでしょうか。このコミュニティ・スクールの決定事項と方針等について、保護者や地域の皆さんに周知する方法を検討するのと同時に、もう一個上の段階で、寝屋川教育の在り方を市民との共有、保護者との共有、これがしっかりできるような体制をぜひ作っていっていただきたいと思います。

あとは、秋元委員、藤田教育長職務代理者からもいただいたお話ですけれども、学校側の負担であるとか先生方の負担だとかというところも、やはり大きな課題になっては困ると思っています。

市では、教職員の負担軽減を一つの大きな目標として掲げて、予算も確保してきました。例えば、学習システム、校務支援システム等の様々なシステム導入や、部活の共有化、いじめ対策の監察課等、本来の目的に加えて裏テーマといいますか、もう一つ大きなテーマとして教職員の働き方改革という考えから、様々な取組を実施しています。

これまで、例えば議会で予算をお願いする場合でも、子供たちのためにこれが必要だという予算の求め方をしていましたが、今回は教職員の働き方改革に資するのだということも御説明させていただきました。

その中で、例えばこういうコミュニティ・スクールに導入に当たって、これが逆行するようでは困りますので、うまく調整をしてもらいながら、さっき藤田教育長職務代理者から御指摘いただいたように、地域との意思の疎通が、これを使って整理をされるということであれば、良いところは取り入れながら先生の負担というのを減らしていくことは可能だと思います。秋以降、具体的な制度を作るに当たって、教職員の負担軽減を一つの大きな視点として入れていただいて、会議の進め方もしくは地域と

の様々な共有も含めて進めていただけたらと思っています。

それから、地域の特色を学校に入れていくと、学校が特色化するということで、これに対しては、私も良いことだと思っています。ただし、これは個人的な考えですが、特色というのには３つの層があると思っています。

まず一層目は、国が定めた指導要領に書いてある教育の内容で一番核のところです。これは全国津々浦々、どこへ行こうが変わらないものだと思っています。そして、二層目は、地域の特色、それぞれの学校ごとの特色です。

私はこれからの寝屋川市のことを考えたときに、若い子育て世帯の皆さんに、寝屋川のまちにお越しいただかなければならないということを考えると、この一層目、二層目だけではなく、新たに一層目と二層目の間に、「寝屋川教育」というもう一個新たな層を作る必要があると思っております。今まで全国津々浦々変わらない一層目と、学校ごとに変わる二層目の、二層構造だったものを三層構造にしていただければと思っております。寝屋川市の教育というのはこういうもので、そこで育った子供たちは、こういう子供たちだという市としての特色が二層目に入って、三層目には、各地域の各学校の特色があるということです。なので、一層目は全国で変わらない指導要領の内容、二層目は、他市と比べたときに、寝屋川の教育、寝屋川の子供たちはこうなのだという市の特色、三層目は、それぞれの校区ごと、学校の様々な特色。特に、このコミュニティ・スクールというのは、恐らくこの三層目を地域の中で、学校ごとの差を出していくための制度だと理解しています。

二層目の強化は、寝屋川市が子育て世代の皆さんに選んでいただく中では、大変重要なところだと思っておりますので、このコミュニティ・スクールを導入して、三層目を強化すると同時に、この二層目を強化するのに資するような制度になってもらいたいと思います。実際の具体的な制度設計に当たっては、三層目だけではなく、意識を先ほどの働き方改革の視点と、この二層目の寝屋川の子供たちの教育という層、この大きい２つの視点が入れば、寝屋川固有の制度になると思いますので、そうした視点をぜひ加えて進めていっていただきたいと思います。

それでは、続きまして、次第の３、市第四中学校区小中一貫校の校名について、事務局から説明いたします。

**○赤堀学校教育部次長兼教育政策総務課長**

それでは、市第四中学校区小中一貫校の校名について御説明させていただきます。現在、第四中学校区において施設一体型小中一貫校の建設を進めており、令和５年12月末に、校舎棟等の竣工を予定しております。

第四中学校区における明和小学校、梅が丘小学校、第四中学校では、開校に向けた準備・調整を進めており、保護者、地域関係者、学校関係者、教育委員会事務局職員で組織された第四中学校区小中一貫校開校準備実行委員会において開校に向けた様々な検討が行われているところでございます。

実行委員会におかれましては、令和３年６月から現在まで、児童・生徒アンケート

の実施や計６回の委員会による協議をされ、校名に関しましては、児童・生徒アンケートや委員会に加え、専門部会も２回開催し検討を行ってこられました。

今回、実行委員会において、検討を重ねられました新校の校名について、市教育委員会に対し検討依頼の送付がありました。

資料「第四中学校区小中一貫校校名の検討について」を御覧ください。

こちらは、実行委員会において、検討された校名案は、寝屋川市立望が丘小学校・中学校である旨が記載されております。

校名案選定の意味・由来としましては、（１）飯盛山の稜線を望み、まちを望む地形に立地していることを示す。（２）児童・生徒が将来に望みをもち、希望に満ちた学校生活を送るの、２点が示されております。

また、校名選定に係る観点としましては、（１）地名や、地域のイメージが湧きやすいか。（２）長期にわたって、分かりやすく使い続けられるか。（３）学校の校名としてふさわしいか、の３点を踏まえた上で検討を重ねてこられました。

つきましては、地域や保護者等の意向をお汲み取りのうえ、校名案を御検討いただきますようお願いいたします。

説明は、以上でございます。

**○広瀬市長**

事務局の説明は終わりました。それでは、まず私からお話させていただきます。

大変良い名前だと思っています。特に、私は個人的に土地の特色だとか、みんなが思い浮かべられるものがいいのではないかと感じていました。

あの場所に行けば大阪平野や、大阪の中心になる北のエリアのビル群が、眼下に広がっています。夜に行くと、夜景がすごくきれいな場所です。昼間に見ていただいても、ビルの影がかなり近くに感じることができます。あとは歴史的に言うと、すぐ近くに飯盛山があり、ここには昔、飯盛山城という大変有名なお城がありました。織田信長が桶狭間の戦いをした時期の少し前までは、三好家という四国２カ国、兵庫県の姫路の辺りから大阪、和歌山にかけて、全部を領土に持っていた大名が拠点にしたのが飯盛山城で、西日本の中心地にあったところです。

そうした山をすぐ目の前に望む、そういう由来を見て、大阪の中心部のまちを望んで、飯盛山を望んで、子供たちがこの丘の中で自分たちの望みをかなえていくという、いろんな意味ですごくイメージも湧きますし、将来への目標というイメージも湧く、本当に良い名前だと思います。私もこれに賛同したいと思います。

私からは以上です。

続きまして、教育委員会を代表し、髙須教育長よりお願いいたします。

**○高須教育長**

校名というのは、廃校を除いては、恒久的に使われるものです。私は小学校を出て60年近くになるのですが、今でも校名は、小・中・高・大を全部覚えています。学校は子供たちにとって自分たちの家庭でもあり、ふるさとでもあると思います。

そのためには、やはり分かりやすさや、親しみやすさ、さらには、誇りを持てるような名前が良いのではないかと思いますので、望が丘という校名は、本当に良いと思います。子供たちが希望を持って進んでいき、振り返ったときに、私の母校は望が丘小学校・中学校だということが誇りを持って言えるような、そういう響きのある名前ではないかと思います。

この望が丘小学校・中学校という名前については、もともとは児童・生徒のアンケート、さらに、それを保護者や地域、あるいは学校の教職員や、それらが一緒になって考え、自分たちの地域に則したようなそういうものを探していった結果、こういう名前を提案いただいたと思います。

これが寝屋川で初めての施設一体型小中一貫校で使用されるということも踏まえる上で、望が丘小学校・中学校という名前は非常に良いですし、小学校１年生から中学校３年まで同じ環境の中で育っていくのにぴったりの校名ではないかと考えております。

以上ございます。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

中川委員、いかがでしょうか。

**○中川委員**

私もすごく良い名前だと思っています。その小学校に直接行っていない方も、そういう新しい名前の学校ができたことによって、一回そこを訪れたいと思うような、愛着が沸くようになれば良いと感じました。

１点質問ですが、建設工事は、計画どおり進んでいるかどうかを教えていただきたいです。

**○広瀬市長**

はい、宮永部長。

**○宮永学校教育部部長**

現在、計画どおり進んでおりまして、全体の工程で申し上げますと、進捗状況は約９％程度でございます。懸念されておりましたウクライナ情勢の影響もなく進んでおります。

以上でございます。

**○中川委員**

分かりました。

**○広瀬市長**

たまにTwitterなどで市民の方が動画を上げていただいているときがありますので、また見ていただけたらと思います。どんどん進んできており、今は基礎のところが終わって、今から建ち上がっていくのだと感じることができます。

中澤委員、いかがでしょうか。

**○中澤委員**

この名前を初めてお聞きしたときには、本当にすばらしい名前だなと思いました。私はずっと寝屋川にいますが、いい意味で寝屋川っぽくないという印象を受けました。

１点質問です。進捗状況は全然見に行っていないので分からないのですが、子供たちが通う前に、見学会のようなものは行われるのでしょうか。

**○広瀬市長**

はい、宮永部長。

**○宮永学校教育部部長**

進捗状況によりますが、中間的なところで見学会ですとか、そういったことは今後検討していきたいと考えております。

以上でございます。

**○広瀬市長**

我々と教育委員の皆さんで、またどこかのタイミングで見学に行けたらと思います。

玉井委員、いかがでしょうか。

**○玉井委員**

新しい校名を拝見しまして、こちらの校名が保護者の方、地域の関係者の方、学校関係者の方、それから子供たちのことを考え、児童・生徒アンケートもきちんと踏まえられて、開校準備実行委員会で十分に検討された結果であるということを伺いました。それから、地域の方の思いも詰まったものであると感じております。

この名前ですが、子供たちが新しい小中一貫校に対して、何か思いを持つ、希望を抱くという意味だけではなくて、そこから広がる自分たちの未来に対しても大きな希望を抱いているというようにも感じることができまして、そのような思いを持った素晴らしい校名になったと感じております。

以上です。

**○広瀬市長**

ありがとうございます。

藤田教育長職務代理者、いかがでしょうか。

**○藤田教育長職務代理者**

校名に関しては、本当に素晴らしい名前だと思います。ドラマに出てきそうな素敵な名前で、私は寝屋川で生まれで寝屋川で育ってきた中で、普通の名前の学校に通っていましたので、うらやましく感じました。ただ、最後勤務した学校が成美小学校で、成美は論語から採られており、素晴らしい名前だと思っています。

自分の出身校が望が丘小学校であったり、自分が勤めているところが望が丘中学校だと言えたら、とても素敵だなと思いました。

１点質問ですが、私も小・中・高と寝屋川でしたが、校歌には飯盛山や淀川という言葉が入っていました。歴史が分かってすごく良かったと思っています。校歌というのは、ずっと思い出に残ります。私は西小学校出身ですが、西小学校に赴任したとき

に、始業式で子供たちが歌ってくれたときは感動して、涙が出ました。自分の小学校にもう一回帰ってくることができてすごく嬉しかったです。

子供たちの記憶にいつまでも残りますので、校歌をどのように作っていかれるのかということに大変興味があります。寝屋川出身のアーティストの方や、著名人も多いのですが、その開校準備実行委員会では、どのように計画をされているのかということを教えていただきたいと思います。

**○広瀬市長**

はい、荒木教育次長。

**○荒木教育次長兼学校教育部長**

校歌、校章につきましては、開校準備実行委員会の方と連携をさせていただきまして、作成委託というようなことについては、市から業者にお願いをしていきたいと思っております。

ただ、例えば歌詞の部分を公募していくということ等、そういったこともこれから準備委員会の方々と相談をさせていただきながら、進めたいと考えているところでございます。

校名の議論があったときに、次は校歌や校章というところも、開校準備実行委員会の皆さんはイメージしておられまして、そのときには、小学校と中学校の両方で歌うので、少し大人っぽいイメージでも小学校でも十分歌えると思いますという意見がありました。今の明和小学校の校歌が、少し長くて大人っぽい印象の校歌であるということで、それでも十分に小学生でも歌えるので、小学校、中学校のみんなが大事にできる校歌になったら良いという意見もいただいておりました。

ですので、そういったことも踏まえながら、今後作成をしていきたいと思っております。作成を業者さんに委託し、中身を委員会の皆さんと相談しながら作っていくという形になると思います。

以上でございます。

**○広瀬市長**

藤田教育長職務代理者がおっしゃるように、これは本当に重要な内容だと思います。子供たちにとっては校名と匹敵するほどのすごく思い出に残るものですので、ぜひ誇れるものを作っていただいて、あの校歌がうらやましいとみんなに言っていただけるような、そんな校歌にしていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

校名については、様々な御意見をいただきました。私は、市長としての視点からもう一つ考えていたことがあります。今、２軸化構想ということで、京阪軸の開発と同時に学研都市軸の開発をし、学研都市軸に新たにお越しいただく若い子育て世代の皆さんが、高齢化する京阪軸をしっかり支えていき、まちの経営をやっていくということを考えています。

そうした中で、他市の方もそうですし、寝屋川市内の方々もそうですけれども、中学校の名前を聞いて、その地理的な特色がぱっと頭に浮かんで、あそこは丘の上にあ

る地域で緑も豊かで交通の便も良いということを一瞬にして認識してもらえるようなものが必要であると思います。これは本来、地名がそういう地名であるべきなのですが、様々な地名は、何か歴史があります。ですから、これは隈研吾さんが設計の指揮をとってらっしゃる小中一貫校であって、同時に地域の特性を表す名前があって、教育の内容が合わさって、寝屋川の一つの象徴、メインアイコンとして役割を果たしてもらうことになるのだろうと思います。

そのためには、学校を作るだけではだめですし、学校の名前も、その中で行われている教育の在り方も校舎も重要で、それが合わさって初めて１つの象徴的な役割を果たせるのだと思います。我々がまちづくりという観点から、このメインアイコンとしての位置付けを考える中で、その役割を十分に果たすことができる名前だと思っています。大変良い名前だと思いますし、これからも引き続き校区等も含めて、取組を進めていただけたらと思います。そのほかに、御意見等ございませんか。

それでは、ほかに御意見がないようですので、市第四中学校区小中一貫校の校名についての意見交換を終わらせていただきます。

以上で本日の案件は全て終了いたしました。

最後に閉会に当たりまして、一言挨拶を申し上げます。

様々な御意見をいただきまして、私の考えも折々にお伝えをさしていただきました。働き方改革を前面に出して、様々な取組を進めているということも、これまであまりなかったことだと思いますので、その働き方改革を進める中で、先生方には教員免許がなければできない仕事に特化していただきたいと思っております。

これが先ほどのディベートも含めて合わさることで、教育の質の向上や、子供たちの様々な成長に最も近道だろうと思っています。ですから、大変困難な取組ですが、市としてもしっかりサポートしていきながら、予算も確保して、働き方改革につながるような取組をしっかりと進めておきたいと思っております。

教育委員の皆様方には、そうした我々の思いを御理解いただいた上で、先ほど申し上げた、どの地域でも恐らく二層構造だと思いますが、寝屋川では三層の構造、特に二層目の「寝屋川だから」とか、「寝屋川の子供たちは」というところをしっかり意識していただいて、様々な日々の教育委員会の活動に御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。

**○荒木教育次長兼学校教育部長**

ありがとうございました。

本日、御協議いただきました内容を十分に踏まえまして、今後も事業を進めてまいりたいと存じます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。